コニカミノルタ「共創の場」におけるイノベーション推進

The Konica Minolta Innovation Spiral and the SKT Co-Creation Space

平井　桂＊　武中浩一＊　竹田真弓＊　江崎敦雄＊
Katsura HIRAI　Koichi TAKENAKA　Mayumi TAKEDA　Atsuo EZAKI

要旨

2014年7月にコニカミノルタ八王子SKTの2階に「共創の場」を開設した。この「共創の場」は，オープンイノベーションを基軸とした価値創造・イノベーションを推進すべく，全社を対象に設けた施設である。

「共創の場」には，三つの機能，すなわちコニカミノルタの技術を一同に集め，強みや可能性をお客様やパートナーに知っていただくための「技術展示」，パートナーをお迎えし共同開発や特別展示等により新たなビジネスチャンスを創出する「パートナー共創」，その成果やアイデアを具現化し，同時に技術・人財の結集や開発力向上への支援を意図した「技術研鑽」の機能を付与した。「技術研鑽」での成果は，新たな製品・サービスとなって「技術展示」に還元され，さらに「パートナー共創」のタネとする，といった持続的な成長・スパイラルアップにより，コニカミノルタ流のイノベーション推進を意図している。これら三つの機能を効果的に作用させるため，それぞれのゾーンを企画し立ち上げた。

本稿では，「共創の場」の狙い，機能，構成，運用の概略を紹介し，課題と今後の展望を述べる。

Abstract

For many years, Konica Minolta has viewed innovation as a critical factor in the strategy of its technology. In July, 2014, to facilitate open innovation activities for the creation of value, we opened our Co-Creation Space in the new SKT R&D center building in Hachioji, Tokyo. At the Co-Creation Space, the Konica Minolta Innovation Spiral of Demonstration, Collaboration, and Development is accommodated in an optimized zone for each of these three processes. In this paper, we introduce the concept and functional design of the value-creating Konica Minolta Innovation Spiral.

In the Demonstration Zone, all of Konica Minolta's technologies are gathered in one location, where technical demonstrations are given so that our clients and business partners can deepen their understanding of the strong points and potentials of Konica Minolta's technological prowess. We expect that exchanges made in the Demonstration Zone will plant the seeds of collaboration.

In the Collaboration Zone, clients and business partners are invited to collaborate with Konica Minolta personnel to explore new ideas and how to bring them into reality, and thus to create new value for our clients and business partners. Through this process, we maintain our commitment to the continuous development of new business opportunities and futuristic ideas.

In the Development Zone, the results of collaboration with clients and business partners are transformed into new products and services for our clients. To achieve this, we concentrate and develop Konica Minolta's technologies and human resources. These new products and services are then themselves introduced in the Demonstration Zone, bringing the Konica Minolta Innovation Spiral full circle.

＊開発統括本部　技術戦略部　技術戦略1G

1　はじめに

コニカミノルタでは，オープンイノベーションの推進を全社技術戦略の方針のひとつに掲げ，技術導入や共同開発の推進を含む外部連携の施策を進めてきた。我々は，このオープンイノベーション施策をさらに推進するため，2014年4月竣工の研究開発新棟に「共創の場」の設置を計画した。その機能，活用方法，設備等について企画・検討を進め，7月に開設し運用をスタートさせた。以下，「共創の場」について紹介し，課題や今後の展望を述べる。

2　共創の場　設置に向けた課題

かねてより外部とのコラボレーションを狙った施設が各社から提案されている。例えば，オムロン(株)の京阪奈イノベーションセンター，テルモ(株)のテルモメディカルプラネックス，富士フィルムホールディングス(株)の「Open Innovation Hub」等が挙げられ，各社各様の考え方と運用により，顧客やビジネスパートナーとのコラボレーション推進を図っている。

では，コニカミノルタ流の「共創の場」とはどうあるべきなのか，現状とその課題・ニーズを踏まえたうえで，今後のオープンイノベーションのさらなる推進を睨み，具体的な企画検討を進めてきた。

まず，主な利用者となる全開発部門へのヒアリングを行い，課題や要望を抽出した。以下，主な意見を挙げる。

- 技術者がお客様やディーラーからダイレクトに話を聞く機会を増やしたい。真のニーズを捉えたい。
- お客様に試作機を扱ってもらいフィードバックを得たい。実際にサンプルや実機を見ながらその場で聞きたい。
- ベンダーを含むパートナーと，開発の現物や動作を確認しながら評価したい，あるいは協議したい。
- フルオプションの機器（デジタル印刷機）を見ながら，ワークフローや各ユニットの動作を体感したい。
- 共同開発のスピードを上げたい。
- 共同開発パートナーとの仕事場所を確保したい。
- コニカミノルタの保有技術全てを紹介したい。
- 製品に搭載される技術をわかりやすく紹介したい。

以上の声からは，お客様やパートナーと，コニカミノルタの技術者が，単に会議や打ち合わせでコミュニケーションを図るだけでは不足し，現場・現物（開発品やサンプル）を共有し，双方が体感することが求められていることがわかった。セキュリティーを考慮して隔離された従来型の実験室では，対応が難しいニーズである。実際にお客様が真に価値と感じていただいているかを知る

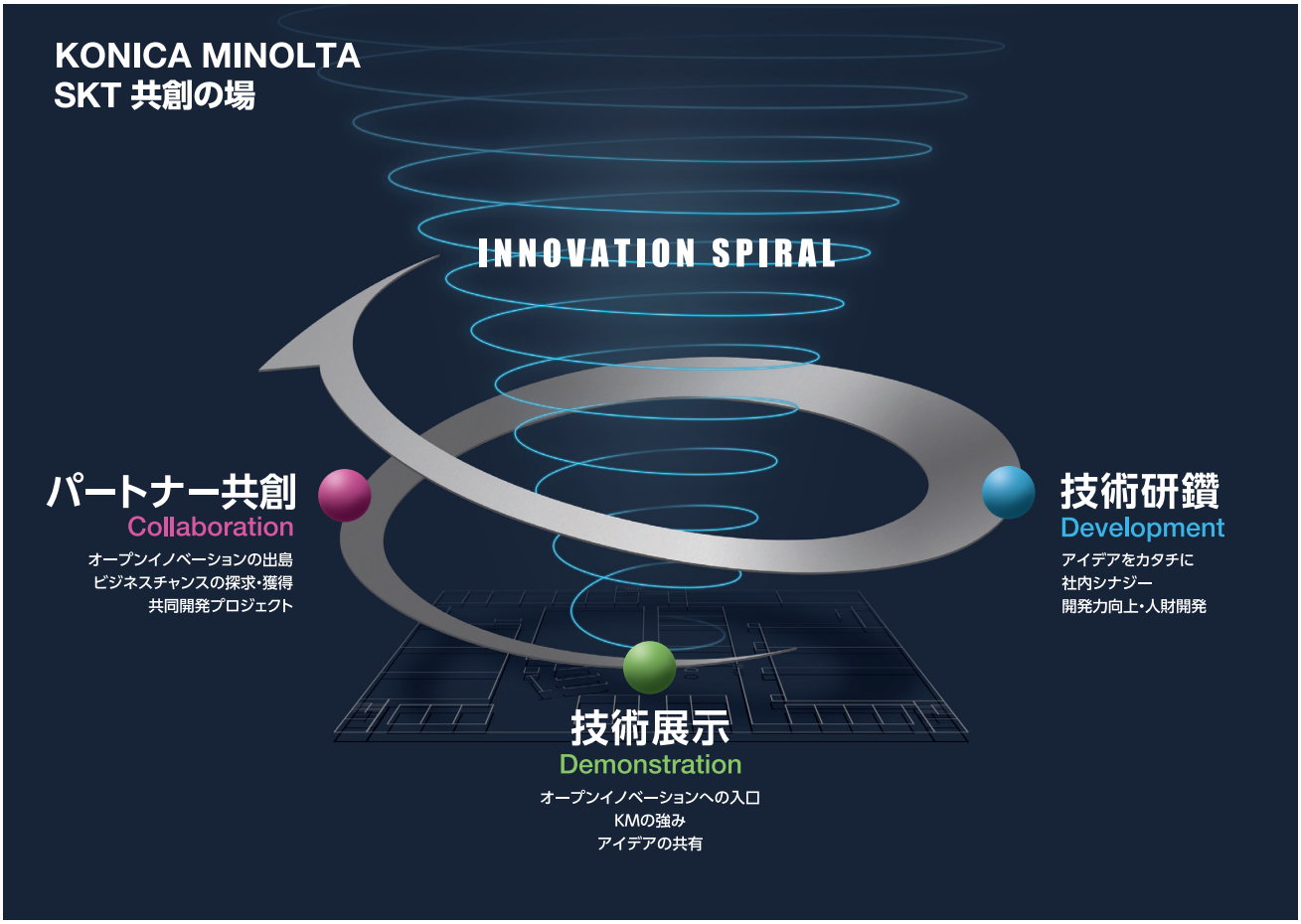

Fig. 1 The Konica Minolta Innovation Spiral creates value through the stages of Demonstration, Collaboration, and Development.

には，現場・現物を介したコミュニケーションが不可欠と考えられる。このように，共創の場の企画に当たって，現場・現物・体感を最も重要な要素と位置付け，オープンイノベーション，ひいてはコニカミノルタの価値創造を推進・支援するための共創の場の設計を検討した。

3　狙いと機能

機能設計に当たり下記の三つの機能，すなわち，技術展示･パートナー共創･技術研鑽の機能の付与を考慮した。これらを併せた全体コンセプトと共に以下にまとめる。

3. 1　技術展示（Demonstration）

コニカミノルタの持つ技術の強みや可能性をお客様やパートナーに知っていただくため，全分野の最新技術を一同に集め展示するオープンイノベーションの入り口としての機能を付与する。展示内容に対する交流の中から共創のタネやきっかけを生み出すことが狙いである。お客様やパートナーのニーズを受けるだけではなく，コニカミノルタのニーズも感じていただけるとの期待がある。

事業や製品・サービスの紹介という位置づけではなく，それらのベースとなる技術を，現物をもってアピールをすることで，共創の可能性に広がりを持たせる意図がある。

3. 2　パートナー共創（Collaboration）

新たなビジネスチャンスや将来のアイデア，新たな技術の創出を狙い，特定のお客様やパートナーをお迎えして新しい価値・真の価値とは何か，一緒に考えていただく場を準備した。守秘契約も想定した場にて，開発品を展示し評価していただく等の現場環境を提供する。

また，パートナーに長期間滞留していただける共同開発の現場も準備し，開発テーマのフェーズに合わせたフレキシブルな活用も可能とする。複数のパートナーが別個に滞在しつつ，コニカミノルタ技術者と同じ現場で活動できるよう，セキュリティーに配慮した，まさにオープンイノベーションの出島としての利用を想定して企画した。

3. 3　技術研鑽（Development）

パートナー共創からの成果やアイデアを具現化し新たな製品・サービスとしてお客様に価値を提供していくための，コニカミノルタ内のシナジーの場，HUBとしての機能を付与する。真の顧客価値をいち早く提供するため，コニカミノルタの技術・人財を結集し，磨き，成長させる場と位置づけ，具体的には，選抜的な人財開発プログラムや，能動的なプロジェクト活動等を推進し，支援していく。パートナー共創で生まれたアイデアの検証や，共同開発テーマのバックグラウンドとしての利用も推奨する。技術展示やパートナー共創に加え，このような機能を持たせることで，オープンイノベーションのさらなる推進に寄与すると考えた。

3. 4　全体コンセプト

技術展示，パートナー共創の活用を経て，技術研鑽での成果は，新たな製品やサービスになって技術アピールの形で技術展示に還元される。このような成長のイメージを，INNOVATION SPIRALとして，共創の場のコンセプトに掲げた（Fig. 1）。このスパイラルアップによる持続的な成長が，新たな価値の創造，ひいては社会貢献に結び付くものと考えた。

4　構成と運用

以上の狙いと機能設計により，場の設計を行い，Fig. 2に示すフロアレイアウトを決定した。研究開発新棟（7階建て，建築面積6018 m²，延床面積40282 m²）の2階全体（約5600 m²）に，三つの機能に対応した三つのゾーンを配置した。以下，各ゾーンの構成と運用について，概略を紹介する。

4. 1　技術展示ゾーン

2階フロアの入り口正面に技術展示ゾーンを設けた（Fig. 3）。コニカミノルタの保有するコア技術をベースとして，最新技術を展示している。パネル，サイネージでの技術説明，製品やサンプルのデモ等のコンテンツは，常に見直しをかけ更新していく。

4. 2　パートナー共創ゾーン

技術展示ゾーンに隣接するエリアに，約40 m²～最大約180 m²の計10室を設けた。使用要請のあった開発部門あるいは開発テーマに貸し出し，パートナーとの共創プロジェクトの期間・内容によってフレキシブルな運用を行うことにしている。すでに機器の共同開発，お客様との対話，製品の使用環境を再現したうえでの各種試作品のデモンストレーション等での利用が始まっている。Fig. 4は，お客様との対話等に利用するスペースの例である。

各室は個別のセキュリティーによる入退出管理が可能で，十分な音漏れ防止対策を施している。また，通常の応接･打ち合わせスペース，TV会議システム，電話会議システム以外にも，お客様やパートナーの長期間滞在を想定したソロワーク用のコーナー，ゲスト用無線LAN，休憩･ラウンジスペース，クラウド接続MFP等，各種設備を揃えている。

4. 3　技術研鑽ゾーン

中長期利用を想定したプロジェクトルーム，実験やプロトタイピングが可能なラボルーム，セミナーや技術発表会・講演会，研修のための大小のホールを設置している（Fig. 5）。また，技術者の自由な交流を意図したラウンジ（SKTコモンズと命名）を設けた（Fig. 6）。このゾーンはセキュリティーレベルを一段上げた社内利用を原則としている。

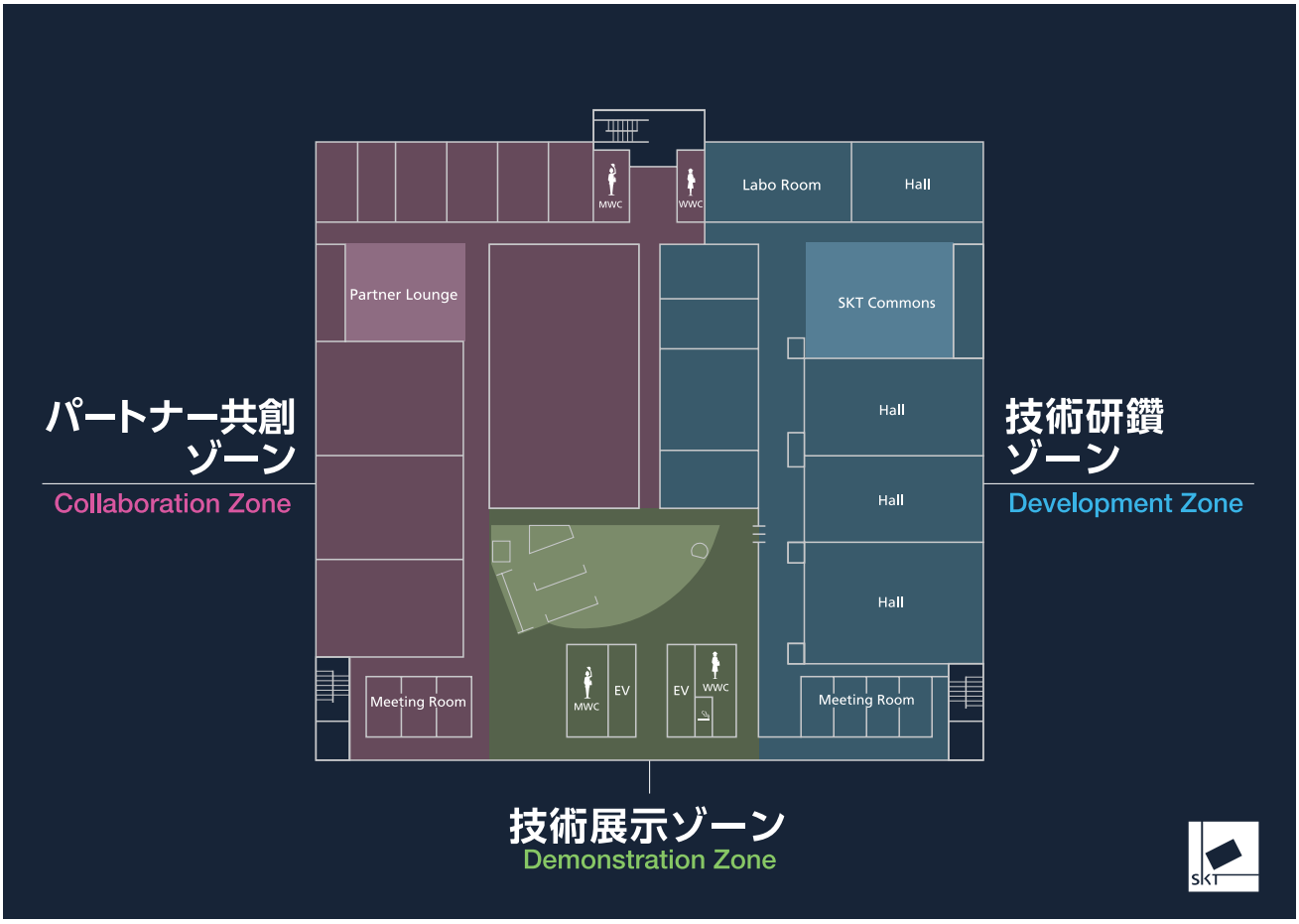

Fig. 2 Layout of the three zones at the SKT Co-Creation Space.

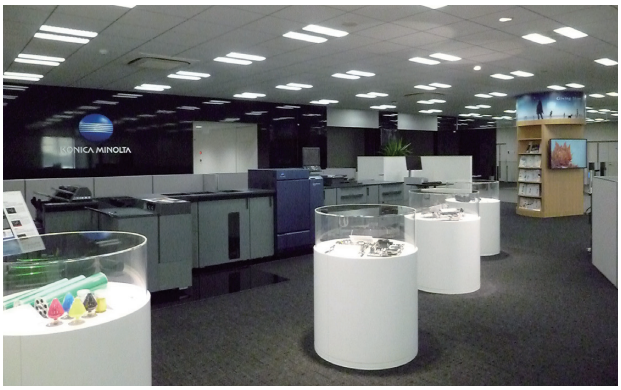

Fig. 3 Inside the Demonstration Zone.

Fig. 5 Inside the Development Zone.

Fig. 4 Inside the Collaboration Zone.

Fig. 6 The SKT Commons in the Demonstration Zone.

5　オープンイノベーション推進の取り組み

7月の開設後9月末までに，技術展示ゾーンには30社以上のお客様およびパートナーの方々に訪問していただいた。コニカミノルタの最新技術の紹介により，新たな認識と興味を持っていただいた他，技術の応用や展開についてその場でディスカッションが生まれる等，好評を得ている。さらに，一部の開発技術については，評価していただく機会に繋がった。

パートナー共創ゾーンでも既に，パートナーの方々に来訪いただいたうえ，開発品を目の前にした共同開発の具体的な検討が，複数の開発テーマで行われた。また，使用環境を再現したデモルームを設け，お客様や事業パートナーの候補となる企業とのヒアリングやディスカッションの機会を設ける等の活動が，複数の開発テーマで進行中である。その他，大学教授等の専門家の講演会を技術研鑽ゾーンで開催した後，パートナー共創ゾーンのデモルームにて，専門家と社内の技術者とのディスカッションを行う等の活動も実施された。

このように，当初狙った機能については，順調に立ち上がり，オープンイノベーション推進の足掛かりの場ができたと考えている。

6　課題と展望

以上，共創の場の企画と立ち上げの状況を紹介したが，当初の狙いを実現するには，まだ多くの課題が残されている。技術展示ゾーンではタイムリーなコンテンツの更新と，技術紹介のアピール度を上げるための運用のブラシュアップや魅力ある企画が必要である。パートナー共創ゾーンでは，開発テーマの計画や技術戦略にリンクした支援に加え，ダイナミックなオープンイノベーション推進策を開発部門と一体となって考えていく必要がある。また，技術研鑽ゾーンでは，パートナー共創とのリンクや能動的なプロジェクトの推進について，開発部門に加えて人財開発部門と協力して今後さらに具体化していく。

今後も各ゾーンの機能を高めるための工夫や仕掛けを継続的に実施することで，コニカミノルタ流のイノベーション推進を加速していく。

7　謝辞

コニカミノルタ共創の場の開設にあたり，SKTの設計建設ならびに2階内装工事を株式会社竹中工務店の皆様方に，技術展示ゾーン他の企画・デザイン・制作をコクヨファニチャー株式会社の皆様方に，それぞれご担当いただきました。多大のご尽力に感謝し，厚く御礼申し上げます。